

別 冊 （3）

記念物部会

史跡等保存活用計画に伴う歴史調査について

1 概要

京都市では平成14年に史跡旧二条離宮（二条城）保存管理計画（以下「保存管理計画」という。）を策定したが、本質的価値の記述がない等、内容的に不十分であり、また平成28年4月に文化庁が策定した「文化財活用・理解促進戦略プログラム2020」や、京都市が設置した「二条城の価値を活かし未来を創造する会」の意見書に示されるように、文化財の保存と活用の両立に対する社会的要求は日に日に高まってきている。

この度、京都市では二条城を貴重な地域・観光資源として活用するために、保存管理計画を見直し、史跡旧二条離宮（二条城）保存活用計画として再策定する予定としており（平成27年度以降、文化庁では「史跡等保存管理計画」を「史跡等保存活用計画」と改称）、本調査は、保存活用計画の基礎資料として、旧二条離宮（二条城）の歴史を調査するものである。

2 調査期間

平成29年度～平成30年度

3 調査顧問

(1) 近世

藤井譲治先生（記念物部会委員，京都大学名誉教授）

(2) 近代

小林丈広先生（同志社大学教授）

4 平成29年度の調査内容

(1) 近世

ア 大日本史料

イ 史料稿本

ウ 史料綜覧

エ 京都大学附属図書館蔵 中井家絵図書類

オ 地誌

カ 大工頭中井家関係資料

(2) 近代

ア 京都日出新聞，京都新聞，大阪朝日新聞など諸新聞

イ 京都市行政文書，二条城事務所所蔵文書・絵図類

ウ 京都府庁文書

エ 宮内庁書陵部・国立公文書館所蔵文書

石垣応急処置及び石垣調査について

1 事業の概要

・ 応急処置（防護ネット設置）[別添 1 参照](#)

二条城内の本丸内にある石垣のうち、観覧通路沿いの石垣について、石垣の専門家等から危険性を指摘されたため、防護ネットを設置することにより、来城者の安全対策を施す。

方法として、震災後の熊本城応急対策や、他の城郭での事例も多いポリエステル製の落石防護ネットを用いて施工する。

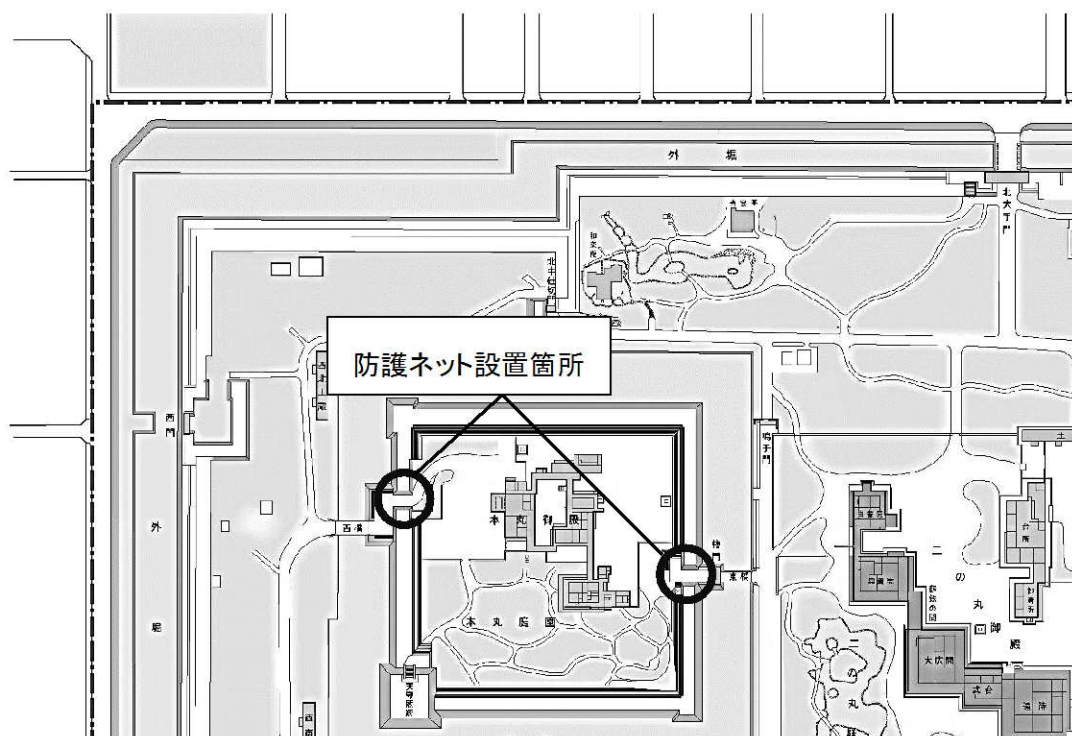


図 城内本丸御殿エリア

・ 石垣調査（オルソ画像作成）

総面積約 25,000 m²の石垣の復原基礎資料を得るための調査を行う。外観を目視観察し、石垣のオルソ画像を作成する。

画像撮影の時期は下草の少ない冬期とし、防護ネットの設置は撮影後速やかに行う。

・ 石垣補強方法の検討，設計

将来、補強の必要があると判断された石垣に対する、具体的な補強方法について検討し、設計を行う。

東側空間整備事業について

1 ガイダンス看板について・・・・・・・・・・別添2参照

- ・ ガイダンス看板内容（文言，画像）－ 図1
- ・ ガイダンス看板配置図－ 図2
- ・ ガイダンス看板イメージ写真－ 図3

2 二条城北西角石垣モニタリング調査について

(1) モニタリング実施日

第1回	平成28年11月24日	工事着工前
第2回	平成29年 1月13日	樹木移植作業終了後
第3回	平成29年 3月 1日	工事中
第4回	平成29年 3月23日	工事中
第5回	平成29年 7月21日	工事終了後，繁忙期運用後
第6回	平成29年 9月26日	繁忙期運用前
第7回	平成29年12月20日	繁忙期運用後

- ・ 今後の予定 今年度3月中旬

(2) 第7回調査結果の概要

- ・ 第6回調査から駐車場の繁忙期（10月と11月）を経て，測量した結果である。
- ・ 南北方向への観測（X座標）は，1－1～1－5，2－4で北方向に10～15mm，6－1～7－5，8－5で南方向に10～16mmの変位がみられた。
- ・ また，東西方向（Y座標）において，1－1～2－5で東方向に9～19mmの変位がみられた。
- ・ 上下方向（Z座標）においては，大きな変異はみられなかった。
- ・ 今後も，石垣の変化について，他城の石垣の事例を参照するとともに，観測値の計測やオルソ画像の撮影を継続し，考察を図る。
- ・ なお，第2駐車場の利用状況は，4月29日のオープンから現時点までで1，606台である。利用は，春（4～6月）が約830台と秋（9～11月）が約750台で繁忙期に集中しており，閑散期（7，8，12，1，2月）は，7月の2台と12月の28台のみで，8月，1月及び2月（現時点）は，利用がない。

<第2駐車場の利用状況>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	合計
利用日数(日)	2	23	29	1	0	16	17	22	4	0	114
利用台数(台)	20	432	374	2	0	227	194	329	28	0	1,606